遠藤れい子の新潟県議会ウォッチ　No.355　2026年11月1日　《部内資料》



原発ゼロに

遠藤れい子ひまわりレポート

〇遠藤れい子事務所　〒940-0052 長岡市神田町3-1-3
☎ 0258-32-1741 fax 0258-32-6443

ホームページ

防災庁スタートの11月、生活と人権を守り抜く政治に転換を！

中越地震22年目の教訓

中越地震の記憶

22年前の10月23日午後5時56分、M6・8、震度7の巨大地震が中越地域を襲い、68人の命が奪われ、最大時10万人余の方が避難生活を強いられました。

全村避難した山古志は全国の支援の下、闘牛や錦鯉など地域の復興に向け頑張っていますが、過疎化が進み、人口は677人と当時の3分の1にまで減少。能登では過疎地が見捨てられ復旧・復興がままならない状況です。

災害対策全国交流集会

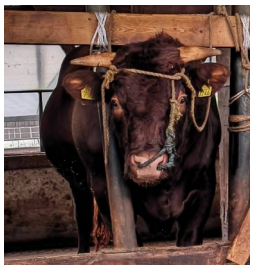
10月24日、25日、災害対策全国交流集会が長岡で開催されました。

講師の飯川健勝さんは、「災害を通して罹災者と共に学ぶ地域の自然環境～調査団を組織して中越地震・中越沖地震・長野県北部地震の災害調査にかかわった経験」を記念講演。地震後現地に出向き、こまめに被災状況を調査し、地元住民に報告し、防災の啓蒙を行ってきたと、豊富な写真も使って話されました。

各地の災対連や団体からも報告がありました。



10/24長岡市内で全国交流集会が開かれる



優しい瞳の闘牛



関克史さんの話を聞く参加者

山古志の今を視る

25日は山古志地域を視察。牛舎前で関克史さんから牛をヘリコプターで避難させたこと。「帰ろう山古志へ」を希望の光に仮設住宅から山古志に戻ったこと。黒毛和牛を育て苦労と工夫を重ねて内閣総理大臣賞も受賞してA5ランクの和牛に育て上げたことなど並々ならぬ努力をお聞きしました。

復興交流館おらたるでは展示物の説明を受けました。仕事に生活に地域づくりに頑張る山古志の皆さんの姿に感動しました。



「おらたる」の写真記録で震災時を想う

11月2日は防災庁発足

災害が多発する日本の避難所は100年前の「雑魚寝」状態が今も続き、被災者の命や人権がないがしろにされています。スフィア基準(清潔なトイレの確保、温かい食事提供、ベッドの提供など)に沿った避難所の質向上を図らなければなりません。

11月2日、政府は防災庁をスタートさせます。諸外国と比べて大変遅れている日本の防災を、被災地と被災者本位に抜本的に改善すること。私たちが声を出し、政府に要求していくことが求められています。



まずは避難所の雑魚寝の解消をめざせ